

(様式 3)

平成 24 年度学融合推進センター学融合研究事業 研究成果報告書

研究テーマ名称	近世有職故実の展開と伝播に関する基礎的研究
応募事業区分	若手研究者研究支援事業
申請代表者氏名	西村慎太郎

○ 研究状況報告

本研究は近世の有職故実が社会にどのように伝播していったかを明らかにする基礎的作業を目的とするため小笠原流礼法を事例に、伊豆深草神社鍵取外岡家文書の調査を行ない、同家文書の全点の目録と写真撮影を行なった。外岡家文書はふたつのまとまりに収納されている。①木箱。木箱に納められた文書は上部に様々な御札や御守りがあり、その下に約 40 巻の小笠原流礼法書が入っている。これまで全く知られていない新出資料であり、外岡家文書の調査を 11 月に実施し、下記のような成果を得た。②勲記などを納めた漆塗り箱。主に近代以降の同家に関わる文書であり、軍人として従軍した際の文書が多数納められている。それらについても下記のような成果を得た。

今回の調査によって小笠原流礼法の民間に伝播した新出資料が明らかになり、この点当該地方自治体にとっても重要な歴史遺産であるため、所蔵者の許諾を得て目録データの譲渡を行なった。

○ 当該事業年度において達成された研究成果

小笠原流礼法書を数多く納めた伊豆深草神社鍵取外岡家文書の調査の成果として、次のようなものを得た。①48 点に及ぶ小笠原流礼法書の新出資料の発見とその目録化。②①の礼法書も含む 294 点に及ぶ外岡家文書の目録化。③今後研究を行なうため外岡家文書 294 点の撮影。④地元自治体関係者・地域住民へ外岡家文書の紹介を込めた報告会の開催(「南伊豆に伝わる武道秘伝書」2012 年 11 月 23 日)

○ 本研究を基に発表した論文と掲載された雑誌名等のリスト (論文があれば添付)

直接の関連はないものの、総研大日文専特別講義「中近世移行期の公家家職の展開」(2013 年 1 月 9 日)にて講義。特別講義の小冊子として刊行。